



週間情報



No.3049

発行日 平成30年12月25日

発行所 全国消防長会

一般財団法人 全国消防協会

担当 企画部企画課 03(3234)1321

両会の動き

◆ 広報事務担当者研修会及び法制執務研修会を浜松市において開催

全国消防長会

平成30年12月20日（木）、静岡県浜松市（アクトシティ浜松）において、浜松市消防局の協力のもと、三遠南信地域（長野県南部の南信州地域、静岡県西部の遠州地域及び愛知県東部の東三河地域）の消防本部で広報や法務を担当している職員等を対象として、前半に広報事務担当者研修会、後半に法制執務研修会を開催しました。

当日は、14消防本部（局）から計180名の消防職員が参加し、広報事務担当者研修会では、プレスリリースに係る知識と技術の向上を図るため、株式会社静岡新聞社から浜松総局次長兼編集部長兼論説委員の森下俊一氏を講師に招き、「消防業務における報道対応について」と題し、ご講義いただきました。

また、法制執務研修会では、消防本部内のリスク管理及びコンプライアンスの充実を図るため、全国消防長会顧問弁護士である木下健治氏を講師に招き、消防行政における情報公開、災害活動業務及びパワーハラスメントに関する判例等について講義いただきました。

研修会の後には、全国消防保険サービス株式会社から消防職員賠償責任保険等についての説明も併せて実施されました。



【広報事務担当者研修会の様子】



【法制執務研修会の様子】

行 事

◆ 近江町市場の歳末特別火災予防警戒防火パトロールを実施

金沢市消防局（石川）

金沢市消防局金沢市駅西消防署では、第二消防団と合同で、平成30年12月13日（木）、「市民の台所」である近江町市場の計57店舗に対し、今ではもうすっかり季節の風物詩となった歳末の防火パトロールを実施しました。

今回の防火パトロールには女性消防団員も参加し、火の取り扱いについての注意喚起を行うとともに、火扱い器具の周囲に可燃物がないかを確認しました。

また、北陸新幹線開業以来、県外・国外からの来客者も多くなったため、場内の避難経路が安全に保たれているかなども併せて確認し、「火の取り扱いには注意しましょう！」と店主らに呼びかけを行いました。



【防火パトロールの様子】

◆ 消防長年末特別査察を実施

志太広域事務組合志太消防本部（静岡）

志太広域事務組合志太消防本部では、平成30年12月18日（火）、大型商業施設焼津さかなセンターにおいて、消防長年末特別査察を実施しました。

この査察は、年末年始に多くの買い物客で賑わう同施設での利用者の安全確保を目的に、消防長が施設関係者と同行し、避難通路幅の確認、火気管理及び消防設備の維持管理状況を確認しました。

同施設では、例年、年末年始に約5万人の来場者があり、有事の際、各テナント従業員が的確に119番通報、初期消火及び避難誘導を行えるよう、また、厨房・電気器具の出火防止対策を講ずるよう、指導を徹底しました。

消防長が直接、火気管理及び避難管理状況を確認することで、施設関係者の防火意識の高揚を図ることができました。



【特別査察の様子】

訓練・演習

◆ 平成30年度災害時職員参集訓練を実施

有田川町消防本部（和歌山）

有田川町消防本部では、昭和東南海地震（昭和19年12月7日）及び昭和南海地震（昭和21年12月21日）の発生にちなみ、平成30年12月7日（金）の早朝に、全職員を対象とした災害時職員参集訓練を実施しました。

訓練は、和歌山県南部でマグニチュード7.9の地震が発生したという想定で行い、非番職員については、自宅から徒歩、自転車及びバイクで、管内の被害状況を確認しながら消防本部や各消防署に参集しました。

消防本部内には、指揮本部が設置され、収集した情報から管内の被害状況を把握するとともに、関係機関との連携を再確認しました。

また、勤務中の職員にあっては、車庫内の全車両を屋外に出した後、庁舎の被害状況や機能確認を行うとともに、出動準備態勢を整えました。

南海トラフ巨大地震の発生確率が高まっているなか、今後も、災害時の対応能力の向上を図ってまいります。



【訓練の様子】

◆ 観覧車からの救出・救助訓練を実施

久留米広域消防本部（福岡）

久留米広域消防本部久留米消防署では、平成30年12月10日（月）、久留米市鳥類センター内にある観覧車のゴンドラからの救出を想定した救助訓練を実施しました。

訓練は、大規模災害により電気設備が故障し、地上約15メートルのゴンドラに乗客が取り残されたとの想定で、高度救助隊及び梯子隊による救助活動を行い、救助技術の向上及び各部隊の連携強化を図ることができました。

また、施設職員への防火指導を合わせて実施したことで、災害時における初動体制の強化及び防火意識の向上につながりました。



【訓練の様子】

◆ 指揮本部設置・運営訓練を実施

高崎市等広域消防局（群馬）

高崎市等広域消防局では、平成30年12月11日（火）、管内で大雨特別警報が発令され大規模な災害が発生したことを想定し、指揮本部の設置・運営訓練及び図上訓練を実施しました。

運営訓練はブラインド形式で実施し、次々に付与される災害に対する部隊配置、広域応援要請の判断等、短時間で膨大な情報の処理や手続等を実施することにより、実災害さながらの緊張感を伴う密度の濃い訓練を実施することができました。

今回の訓練における課題を抽出し、今後も、継続して訓練を実施することにより、指揮調整能力及び受援体制の充実強化に努めてまいります。



【訓練の様子】

◆ 交通事故を想定した多数傷病者対応訓練を実施

常総地方広域市町村圏事務組合消防本部（茨城）

常総地方広域市町村圏事務組合消防本部では、平成30年12月11日（火）、休館日の体育館駐車場において、交通事故を想定した多数傷病者対応訓練を実施し、車両14台職員76名が参加しました。

訓練では、国道を走行中のバスとワゴン車が衝突し、19名の負傷者が発生したことを想定して、負傷者のトリアージから医療機関収容までの各隊の役割及び各部隊間の連携を再確認しました。

首都圏中央連絡自動車道の開通、また、いきいき茨城ゆめ国体2019及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を控え、当消防本部でも更なる部隊連携強化を図り、各種災害等への対応能力向上に努めてまいります。



【訓練の様子】

◆ 若手職員の運転技能訓練・ポンプ運用訓練を実施

宇城広域連合消防本部（熊本）

宇城広域連合消防本部では、平成30年12月12日（水）及び13日（木）の2日間、北消防署において、若手職員の運転技能訓練及びポンプ運用訓練を実施しました。

当訓練は、採用後5年未満の若手職員への技術伝承の一環として、消防ポンプ運用の知識・技術を高めるとともに、ポンプ車の運転技術の向上を目的として企画しました。

運転技能訓練では、狭隘な交差点を想定した右左折要領及びタコツボ切り返しを行い、ポンプ運用訓練では、訓練要領に準じて、基本操作における安全・確実・迅速性を評価しました。

若手職員は訓練を通し、ポンプ車運用の特性及び重要性を改めて理解することができ、今後につながる有効な技術伝承となりました。



【タコツボ切り返しの様子】



【ポンプ運用訓練】

研修等

◆ 情報セキュリティ研修会を開催

富士山南東消防本部（静岡）

富士山南東消防本部では、平成30年12月11日（火）、情報セキュリティに関する研修会を開催しました。

当研修会は、主に今年度採用職員を対象にセキュリティ事故の現状、個人情報の漏えい事例及び防止対策、コンピューターウイルス感染の防止等について学ぶものです。

今日、インターネットをはじめとする情報通信ネットワーク及び情報システムの利用が拡大しているなか、操作ミスによる情報漏えい等を防ぐための対策を行っています。

今後も、不正アクセス及び新たな攻撃手法による情報資産の破壊や改ざん等を防ぐため、組織全体で情報セキュリティ対策に取り組んでまいります。



【研修会の様子】

◆ 医師・看護師による救急隊員研修会を開催

習志野市消防本部（千葉）

習志野市消防本部では、平成30年12月12日（水）、医師・看護師を講師に招き、救急隊員研修会を開催しました。

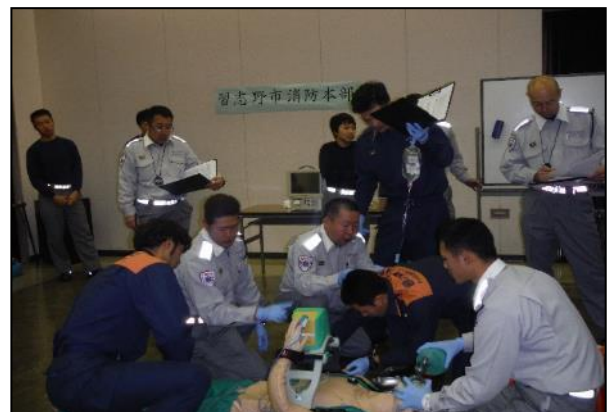
この研修会では、千葉県済生会習志野病院循環器専門医の竹田隆一氏から、基本的な解剖生理、代表的な循環器疾患及び救急搬送時の注意点について、また、同病院集中ケア認定看護師の鎌田あゆみ氏から、臨床推論で導く情報伝達について講義を受けました。

講義終了後には、九州研修所を卒業した指導救命士を中心としたシミュレーション訓練を行い、その後の検討会では、九州研修所で学んだ評価方法により、訓練実施隊へのフィードバックを実施しました。

今後も、定期的に研修会を開催し、救急隊員の知識・技術の向上を図ってまいります。



【竹田医師による講義】



【シミュレーション訓練】

◆ 交通安全運転研修及び指揮能力向上研修を実施

湖南広域消防局（滋賀）

湖南広域消防局では、平成30年12月11日（火）から13日（木）までの3日間、交通安全運転研修及び指揮能力向上研修を実施しました。

交通安全運転研修では、若手機関員を対象に、事故事例などから危険予知トレーニングを行い、実技では、狹隘箇所での走行・誘導要領を訓練し、運転技術の向上を図りました。

指揮能力向上研修では、主任級以上補佐級以下の職員を対象に、建物火災及び水難事故を想定した図上でのシミュレーション訓練を実施しました。

訓練では、現場指揮者の指揮による部隊運用及び機動指揮支援隊による指揮支援活動を行い、指揮能力の向上を図りました。



【交通安全運転研修】



【指揮能力向上研修】

◆ 行政訴訟事件から学ぶ消防法律問題の研修を実施

伊丹市消防局（兵庫）

伊丹市消防局では、平成30年12月13日（木）、全国消防長会顧問弁護士である木下健治氏を講師に招き、行政訴訟事件から学ぶ消防法律問題の研修を行いました。

研修は、現場小隊長等主査級職員及び査察リーダーを務める特別査察員を対象に、第1部では消防活動や救急活動に関する判例を中心に講義いただくとともに、第2部は「物件除去命令処分取消請求事件」について木下弁護士とのディスカッションを行い、理解を深めることができました。

研修会の後には、全国消防保険サービス株式会社から消防職員賠償責任保険等についての説明も併せて実施しました。



【研修の様子】

◆ ハイブリッド車等事故発生時対応講習会を開催

石橋地区消防組合消防本部（栃木）

石橋地区消防組合消防本部では、平成30年12月13日（木）及び14日（金）の2日間、消防本部大会議室及び駐車場において、栃木トヨタ自動車株式会社から講師を招き、ハイブリッド車等事故発生時対応講習会を開催しました。

講習会には、近隣消防本部の職員も参加し、活動時に高圧バッテリーによる二次災害を防止することを目的とし、車両の基本構造等を学びました。

また、水素と酸素を反応させて電気を作り出す蓄電池式自動車についても、実車を使用しての講習を受け、貴重な情報を得ることができました。

ハイブリッド車等を整備する技術者から直接話を聞くことができ、大変有意義な講習会となりました。



【講習会の様子】

◆ 予防研修会を開催

入間東部地区事務組合消防本部（埼玉）

入間東部地区事務組合消防本部では、平成30年12月12日（水）から14日（金）までの3日間、予防研修会を開催しました。

この研修会は、予防業務に従事する消防隊及び救助隊の隊員を対象として平成27年度から毎年度実施しているもので、今回は計119名の職員が参加して、新潟県糸魚川市の火災を受けて改正された消防法施行令等及び近年増加する民泊に関する消防法令の解説、違反対象物に対する指導の事例発表等を行いました。

近年、防火対象物の使用形態は多種多様化・複雑化し、予防業務に関しては専門的な知識が必要になるとともに、当消防本部においても平成30年度から違反対象物公表制度が開始されたことで、違反処理に対して更に力を入れていく必要があります。

予防業務における各課題を克服するため、今後も、研修会を継続して行い、組織として予防業務に対する意識・知識の向上に努めてまいります。



【研修会の様子】

◆ 救急技術研修会を開催

佐久広域連合消防本部（長野）

佐久広域連合消防本部では、平成30年12月16日（日）、救急隊員の知識・技術の向上及び救急隊員の連携強化を目的として、救急技術研修会を開催しました。

当研修会では、救急現場を疑似想定し、気道閉塞によるCPA症例、心原性CPA症例、低血糖発作・熱中症によるショック症例及びクラッシュ症候群症例の4症例を実施しました。

活動後のフィードバックでは、地域メディカルコントロールの検証医・検証部会により、プロトコール及び活動指針に沿った活動が行われていたかの検証を実施しました。

また、研修会を地域の医療関係者へ一般公開することにより、医師及び看護師から救急活動の理解を得ることができ、より一層医療機関との連携が強化されました。

今後も、医療機関との連携を強化し、救急隊員の知識・技術の向上を図ってまいります。



【研修会の様子】

◆ 消防職員の惨事ストレス対策研修会を開催

羽生市消防本部（埼玉）

羽生市消防本部では、平成30年12月18日（火）及び19日（水）の2日間、安全衛生の取り組みとして、消防職員の惨事ストレス対策研修会を開催しました。

株式会社アウラ心理教育センター臨床心理士の本多公子氏を講師として招き、「惨事ストレスの基礎的な知識及びその対処法」と題し、講演していただきました。

消防職員ゆえに避けることのできない惨事ストレスの理解及び対策について学び、職員が心身ともに健康な状態で職務を遂行できる職場づくりにつながる、大変有意義な研修会となりました。



【研修会の様子】

その他

◆ 救助隊発足50周年記念G-SHOCKプロモーション動画を公開

神戸市消防局（兵庫）

神戸市消防局では、平成30年12月7日（金）から発売となった、当局救助隊発足50周年記念G-SHOCKのプロモーション動画を、YouTubeで公開しました。

当企画は、平成27年に全国消防救助技術大会（神戸市開催）のPRを目的として作成した限定モデルに続く、カシオ計算機株式会社との2度目のタイアップ企画です。

同社と共同で作成した動画には、昼夜を問わず常に全力で人命救助にあたる救助隊員達の迫力満点の活動シーンが多数収録されています。ぜひご覧下さい。

動画はこちら

↓↓↓

(<https://youtu.be/otcLE89rL38>)



【共同プロモーション動画の一部】

◆ 寄贈車両配置披露式を実施

松本広域消防局（長野）

松本広域消防局では、平成30年12月11日（火）、松本市内在住の一般の方から、高規格救急自動車1台及び高度救命処置用資器材1式の寄贈を受け、寄贈車両配置披露式を実施しました。

寄贈者の方は、「これまでお世話になった故郷に、何らかの形で恩返しをしたい。」との思いがあり、また、かつて救急自動車で搬送された自身の経験から、救急自動車が地域に果たす役割の重要性を感じていたことから、この度の寄贈に至りました。

この車両は、寄贈者のお名前から「もものい号」と命名され、一般の方からの寄贈による救急自動車の存在を多くの方に知っていただき、同じ思いの方々が後に続くことを願い、寄贈者ゆかりの地である長野県阿智村の春に咲き誇る「花桃」のデザインを側面と背面に配しました。

松本市中央地域を管轄する渚消防署に同日配置され、今後、多くの市民の目に触れることになります。



【寄贈式後の記念写真】

◆ 水難事故の救助活動功労者に対する消防長表彰状・感謝状を贈呈

西胆振行政事務組合消防本部（北海道）

西胆振行政事務組合消防本部では、平成30年12月13日（木）、水難事故の救助に携わった功労者に対し、消防長表彰状・感謝状を贈呈しました。

当事案は、平成30年11月23日（金）、管内豊浦町の漁港内で発生した水難事故において、通報から救助まで迅速な連携を図り、自らの危険を顧みず漁船等を駆使し、溺水した傷病者を無事に救助したものです。

的確な判断が功を奏し、冬の海から救助された傷病者は大事に至ることなく、救急隊へ引き継ぐことができ、その後社会復帰されました。



【贈呈後の記念写真】

◆ 新消防艇「にほんかい」就航式を実施

新潟市消防局（新潟）

新潟市消防局では、平成30年12月15日（土）、最新装備を搭載して新しく生まれ変わった新消防艇「にほんかい」の就航式を行いました。

この消防艇の船体デザインは、市民の投票により決定しました。船体には、夕日に染まった日本海へと注ぐ信濃川が3本のラインで描かれ、それぞれのラインは、「過去」、「現在」、「未来」を表し、新潟開港150周年の歴史と輝ける未来を意味しています。

就航式では、現消防艇から新消防艇へアーチを描いた放水により任務を引き継ぎ、消防音楽隊の演奏と市民の方々の温かい拍手で現消防艇を見送りました。

就航式後には、任務継承をテーマとした新消防艇による放水演技を行い、孔雀放水やカラー放水などの華やかなパフォーマンスでデビューを飾りました。



【テープカットの様子】



【新消防艇放水演技の様子】

◆ 消防協力者表彰式を実施

稲敷広域消防本部（茨城）

稲敷広域消防本部では、平成30年12月17日（月）、消防協力者への感謝状贈呈に伴い消防協力者表彰式を実施しました。

当事案は、平成30年11月14日（水）、飲食店内で食事の男性が急に倒れ、心肺停止状態になりました。飲食店店員の男性が異変に気づき、直ちに胸骨圧迫、異物除去を迅速かつ適切に行いました。

救急隊現場到着時には、男性は意識、呼吸及び脈拍が回復しており、病院で療養後、後遺症もなく社会復帰されました。

この勇気ある行動により救命の連鎖が生まれ、尊い命が救われました。



【表彰式の様子】



【表彰式後の記念写真】

消防庁通知等

◆ 危険物規制事務に関する執務資料の送付について

(消防危第226号、平成30年12月18日)

消防庁危険物保安室長から各都道府県消防防災主管部長、東京消防庁・各指定都市消防長あてに通知が発出されましたので、お知らせします。

危険物規制事務に関する執務資料を別添（省略）のとおり送付しますので、執務上の参考としてください。

また、各都道府県消防防災主管部長におかれましては、貴都道府県内の市町村（消防の事務を処理する一部事務組合等を含む。）に対してもこの旨周知されるようお願いいたします。

なお、本通知は消防組織法（昭和22年法律第226号）第37条の規定に基づく助言として発出するものであることを申し添えます。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(http://www.fdma.go.jp/concern/law/tuchi3012/pdf/301218_ki226.pdf) に掲載されています。

(問い合わせ先)
消防庁危険物保安室
担当：池町係長、大津事務官
TEL 03-5253-7524
FAX 03-5253-7534

◆ Net119緊急通報システムの導入状況等の公表について

(事務連絡、平成30年12月21日)

消防庁防災情報室から各都道府県消防防災主管課あてに事務連絡が発出されましたので、お知らせします。

平素から、消防防災行政の推進に御尽力いただき厚く御礼申し上げます。

Net119緊急通報システムは、音声による119番通報が困難な聴覚・言語機能障害者の方々が消防への通報を円滑に行うことを可能とする極めて重要なものであり、政府として、「障害者基本計画（第4次）」（平成30年3月30日閣議決定）において、平成32年度までにすべての消防本部でこのシステムを導入することを目標として掲げています。また、今年度からその運用に要する経費について市町村に対し地方交付税措置を講じているところです。

このような中、現状ではすべての消防本部でNet119緊急通報システムが導入されているわけではなく、利用できない地域も多くあることを踏まえ、今般、その利用者となる聴覚・言語機能障害者の方々が同システムの導入済地域と未導入地域を把握できるよう、各消防本部における導入状況及び導入予定時期を消防庁ホームページに掲載することといたしました。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(http://www.fdma.go.jp/concern/law/tuchi3012/pdf/301221_jimurenraku.pdf) に掲載されています。

(連絡先)
総務省消防庁 国民保護・防災部防災課 防災情報室
担 当：阿部補佐、城門係長、長坂、古川
電 話：03-5253-7526 FAX：03-5253-7536

◆ 平成31年度における消防庁予算（案）の概要等について

（事務連絡、平成30年12月21日）

消防庁総務課、消防庁消防・救急課から各都道府県消防防災主管部局あてに事務連絡が発出されましたので、お知らせします。

本日、平成31年度当初予算（案）及び平成30年度第2次補正予算（案）が閣議決定されましたので、消防庁予算（案）の概要について、別添1（省略）のとおりお知らせします。

平成31年度消防庁当初予算（案）については、国の財政状況が非常に厳しい中、大阪北部を震源とする地震や平成30年7月豪雨、平成30年北海道胆振東部地震等の大規模災害等を踏まえ、一般会計で対前年度比33.5%増の総額167.6億円となっています。この中で、消防防災施設整備費補助金及び緊急消防援助隊設備整備費補助金については、補助基準額を別添2（省略）のとおり改定することとし、配分方針（案）を別添3（省略）のとおり調整しているところです。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(http://www.fdma.go.jp/concern/law/tuchi3012/pdf/301221_jimurenaku2.pdf) に掲載されています。

（担当）

○ 別添1に関すること

消防庁 総務課 会計第一係 野上、本庄

電話：03-5253-7506

○ 別添2、3に関すること

消防庁 消防・救急課 財政係 武井、石本

電話：03-5253-7522

報道発表

◆ 「Net119緊急通報システムの導入状況等」の公表

（平成30年12月21日、消防庁）

Net119緊急通報システムの利用者となる聴覚・言語機能障害者の方々が全国のNet119緊急通報システムの導入地域と未導入地域を把握できるよう、各消防本部におけるNet119緊急通報システムの導入状況及び導入予定時期を消防庁ホームページに掲載します。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/h30/12/301221_houdou_1.pdf) に掲載されています。

【連絡先】

消防庁国民保護・防災部 防災課

防災情報室 阿部補佐、城門係長

TEL:03-5253-7526 FAX:03-5253-7536

情報提供

◆ 救急普及啓発広報車の寄贈について

一般財団法人救急振興財団

一般財団法人救急振興財団では、消防機関が行う応急手当の普及啓発活動を支援するため、一般財団法人日本宝くじ協会から助成を受けて、平成3年度から毎年救急普及啓発広報車の寄贈を行っています。

平成30年度は、高崎市等広域消防局（群馬）、取手市消防本部（茨城）、諏訪広域消防本部（長野）及び粕屋北部消防本部（福岡）の4消防本部に救急普及啓発広報車を寄贈しました。

救急普及啓発広報車は、消防機関に寄贈され、消防機関が開催する出向形式の救命講習会や救急フェアなどの各種イベントで活用されています。

この車両はマイクロバスを架装したもので、車内には心肺蘇生訓練用人形をはじめ、119番通報訓練装置、フルハイビジョン液晶テレビ、ブルーレイ/DVDプレーヤー等が搭載されており、実践的な訓練を体験することができます。

また、車両側面には展示用の展開式ステージが装備され、さらに拡声装置も付いているため、各種イベントにおいて心肺蘇生などのデモンストレーションを披露することもできます。

「命を大切に思う」、「困っている人を助けたい」といった善意に基づいて、躊躇わずに応急手当を行うことができる社会が望まれます。そのような社会を創生していくためにも、救急啓発広報車を有効活用し、地域住民に対する応急手当普及啓発の推進の一助としていただきたいと思います。



【高崎市等広域消防局】



【取手市消防本部】



【諏訪広域消防本部】



【粕屋北部消防本部】

機関誌「ほのお」記事募集

一般財団法人 全国消防協会では、平成31年5月を目途に機関誌「ほのお」を一部改編することとしており、次のとおり試行（2019年3号までの試行）として、新しいコーナーの記事を募集しています。

- ① 知識・技術の伝承-教えて！消防技術-
- ② 女性職員の活躍・推進

執筆要領等の詳細は、週間情報№.3032又は機関誌「ほのお」2018年9号29頁を参照願います。

なお、消防ワイドについても随時、記事を募集しておりますので、引き続きご投稿お待ちしております。※消防ワイドは、150文字程度 of 原稿及びJPEG画像データをhonoo@ffaj-shobo.or.jpに送信願います。

TEL：03-3234-1321（機関誌「ほのお」担当：原）

週間情報への投稿は企画課へ！

週間情報では、各本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せ下さい。

TEL：03-3234-1321 / E-mail：weekly@fcj.gr.jp

記事の投稿に関する注意点

- ・ 配信日（原則火曜日）から2週間以内のイベント、訓練等を中心に掲載しています。
- ・ 文章は、Wordで200字～400字程度で作成をお願いします。
- ・ 写真は、1枚～2枚をWordに貼り付けて送付してください。
（貼り付けできない場合は、JPEG画像データを送付してください。）
- ・ 掲載が決定した場合のみ、担当者よりメールを返信させていただきます。

TEL：03-3234-1321（「週間情報」担当：石井）